

イトモロコ *Squalidus gracilis gracilis* (Temminck et Schlegel)

【選定理由】

愛知県内における生息地は減少傾向にあり、一部の河川で採れる程度である。生息域周辺の開発及び捕食性外来魚の侵入による影響を受けやすい。

【形態】

体長約 5cm。タモロコに類似したやや細長い体型の淡水魚である。体は淡茶褐色で、側線鱗は他の鱗に比べて背腹に長く、その数は 33~36 である。側線の上下には暗色斑があり、これが連なり全体として 1 本の黒色縦条をなす。体の背面には網目状の暗色斑が見られる。同じスゴモロコ属のデメモロコやコウライモロコと比べて、体は太短く頭部の背縁が盛り上がる。口ひげは長く、その長さは瞳の径を越える。成熟した雄では顆粒状の追星が胸鰭にあらわれるが、婚姻色は目立たない。

【分布の概要】

【県内の分布】

木曾川水系、庄内川水系、矢作川水系、豊川水系。

【国内の分布】

愛知県以西の本州、四国、九州（細谷, 2013）。

【世界の分布】

日本固有亜種。

【生息地の環境／生態的特性】

川の中・下流域や、水路の流れの緩やかな砂底・砂礫底を好む。産卵期は 5~6 月で、砂泥底に産卵する。卵は直径約 1mm の弱い粘着卵で、4~5 日で孵化する。孵化直後の仔魚は全長約 2.6 mm、約 1 週間で卵黄を吸収する。満 1 年で成熟するとされる（細谷, 2001）。転石や流木等、隠れ場所の多い環境を好み、川底近くを群泳する。雑食性で底生動物や付着藻類等を食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

木曾川水系、庄内川水系、矢作川水系、豊川水系に生息しているが、県内での詳細な分布状況は不明。河川内のよどみや水路などを主な生息場所としていると思われるが、類似種も多いため正確な採集例は多くない。河川改修および生息域周辺の開発に伴う環境の悪化や水質汚濁、オオクチバス（ブラックバス）やブルーギルなど捕食性の外来魚の増加など複合的な要因が影響していると思われる。

【保全上の留意点】

水路の三面コンクリート護岸化、生息地周辺の開発による水質および環境悪化が大きな要因と考えられるため、生息域において改修を計画する場合は生活史を理解した上での施工が必要となる。また、外来魚による食害も懸念材料であるため、無秩序放流の禁止を強く啓発していくことが重要である。飼育下における繁殖技術に関する知見は乏しく、生息域外保全には解決すべき問題が山積している。

【特記事項】

神奈川県、静岡県では移殖放流による分布が確認されている（松沢・瀬能, 2008）。

【引用文献】

- 細谷和海, 2013. コイ科. 中坊徹次（編）, 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.308-327, 1813-1819. 東海大学出版会, 神奈川.
- 細谷和海, 2001. イトモロコ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（編）, 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 第三版, p.321. 山と溪谷社, 東京.
- 松沢陽士・瀬能 宏, 2008. イトモロコ. 日本の外来魚ガイド 初版, p.130. 文一総合出版, 東京.

(地村佳純)